



新鮮な農産物を 地元から!



都市農政懇談会に参加しました

先月30日に市議会第3回定例会（9月議会）が終わりました。翌日には都市農政議員懇談会視察研修会が開かれ、市議のみなさんと一緒に参加しました。市内3か所の農場を視察し、市内各地で農地を守り技術継承の努力が行われていることに改めて感謝しました。



金森の井上さん

畑・果樹園で20種以上の野菜・果物を育て、ビニールハウス8棟では促成・抑制栽培で継続的に出荷しています。



鶴間の井上農園

ブルーベリーの摘み取り・食べ放題はもちろん、ブルーベリーソルトや乾燥野菜などの商品化、またトゥクトゥクでの送迎を行っています。



本町田の川原さん

体験農園で年間80組の利用者を受け入れています。

食と農は人間生活の土台です。野菜や果物など、地元町田の新鮮な農産物の普及のために議会でもりあげ、さらに日本の食料自給率回復をめざしてがんばります。



市民の声を届けて

第3回定例会（9月議会）の報告②

災害時の避難所の配置は?



学校統廃合により避難所が遠くなるのではないかとという市民の不安の声を示し、避難機能の維持について質問しました。市は、学校統廃合の下でも想定される避難者数をクリアしており、校舎解体後も

約100人分の避難スペースを確保し、給水機能などインフラ設備を引き継ぐ

と答えました。

1学年2クラスの学校も統廃合の対象にする市の強引な計画は見直すことを引き続き求めていきます。

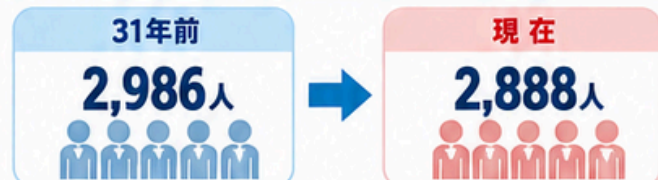


災害対応には職員体制が大切



災害時の職員の役割と体制について質問しました。市は、避難所も担当部署の職員が開設運営を行い、地震では震度4から段階的に自動参集、震度6弱以上で全員参集などの基準を示しました。

市の職員定数の推移（31年間で約100人減）



熊本県宇城市では、職員不足により避難所への段ボールベッドの設置に2週間かかりました。町田市でもこの間2,986人から2,888人と100人近く減らしており、災害時に対応できるよう、余裕ある職員体制を求めました。

職員を減らす時代ではなく、職員を確保しなければならない時代です。

